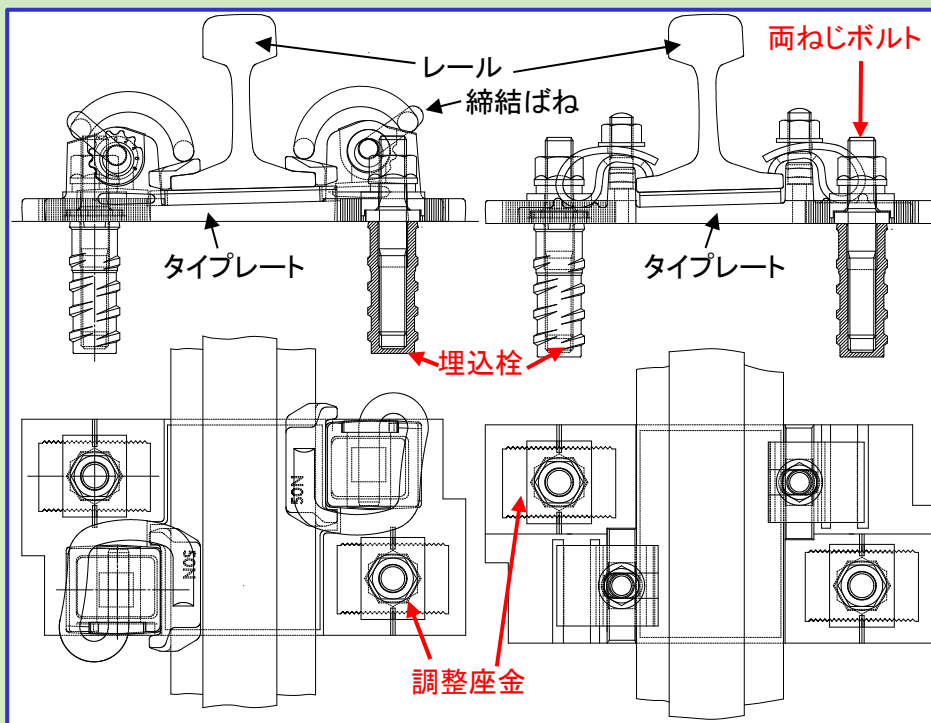


# 大きな調整量を有する合成まくらぎ用レール締結装置

軌道構造研究室

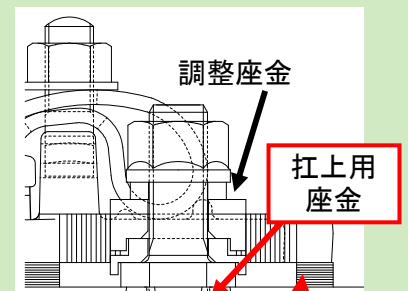
- 概要** 工事桁を撤去せず本設構造物の一部として利用する本設利用工事桁のうち、主桁に合成まくらぎを設置した横桁を取り付け工事桁とし本設化する方式の本設利用工事桁に適用可能なレール締結装置・構造の標準形式です。
- 特徴**
  - ◆ これまで本線上で採用例の少ない、タイププレートと埋込栓を設けた合成まくらぎを両ねじボルトを用いて定着する方式を採用しました。
  - ◆ 構造変化時に必要な、大きなレール位置調整量を実現しました。
  - ◆ 50kgNレールと60kgレールの両方に適用可能で、一般部に加えて継目部への適用も可能です。また、板ばね締結方式と線ばね締結方式の二種類があります。
- 主要諸元** 設計軸重 : 150kN(在来線相当)、適用可能線形 : 曲線半径600m以下  
 調整範囲 : 通り調整量 -20~+20mm 高低調整量 0~+20mm



(一般部用・線ばね締結方式)

(一般部用・板ばね締結方式)

レール締結装置の概要



調整用鋼板(厚さ10mm)

※ 調整量11~20mmの場合  
(高低調整機構)



組合せにより通りを調整  
(±20mm)

(通り調整機構)

レール締結装置の調整機構



(駅構内における敷設状況)



(レール締結装置の拡大図)

実軌道での適用例 (東日本旅客鉄道株式会社提供)